



© 007 Universal Studios. All Rights Reserved.

**Catch!**  
the entertainment

イベント・ライブ・演劇に映画、  
CDリリースから書評に至るまで、  
骨太entertainmentを丸飲み!

MOVIE

公開中

## アメリカン・ギャングスター

### 人生をも左右する「静と動」が、身震いするほど美しく在る。

男ふたりの闘い。そこに潜む闇と、そこに当たる光。「明暗を分ける」瞬間が、男たちの運命の分かれ道である。その壮絶なる岐路に立ち会える映画が生まれたことを、悦ばずして何の映画好きか?

物語の「静と動」然り、ひとりの人間に同居する「静と動」。それこそが、作品の秀逸さを物語っている。一見、麻薬売買に手を染める男(デンゼル・ワシントン)

が悪で、彼を追い詰めようとする刑事(ラッセル・クロウ)が正義のように思われるが、それぞれの男が内に秘めるさまざまな想い…葛藤、願い、規律、望み、諦めといった清濁併せ呑む感情に基づく行動の人間臭さといったらない。実在の人物をモデルにしているとはいえ、ここまで生身のぶつかり合いを描き出せたのは役者あってこそ。

スマートに背広を着こなす紳士然としたデンゼルか、女房に愛想を尽かされる不甲斐ないラッセルか。悩むところではあるものの、個人的には情けなさが愛おしいラッセルに軍配。名優の骨身を削る競演ぶりを引き出した巨匠リドリー・スコットに完敗。

(山田涼子)

■「アメリカン・ギャングスター」 ■TOHOシネマズ二条、MOVIX京都、他  
■監督/リドリー・スコット 出演/デンゼル・ワシントン ラッセル・クロウ 他 ■公開中  
■<http://americangangster.jp>

例えばそれは、「手ぶらで風呂へ行くこと」とは何か?であったり、仕事が終わって風呂に来る人間と、風呂に入ってから仕事に行く人間と、そして遊びに行く前に風呂に入っていく人間がいることを理解するということがあつたりするのである。風呂屋で出会った人間と、再び服を着て会うこともまた、街場ではしばしばあるが、風呂でしかない話であれば、現場や店でしかない話があるのも、これまた事実である。

まさに街場ということでは、寺町三条下ルの「桜湯」なんかは、その典型といつていい。アンダー4000円のノーマル銭湯(これがまた、立派な風呂なのである)に加えて、本格サウナが併設されている。これは何でもアリのオール・イン・ワン!!スーパー銭湯とは違って、コミュニティのレベルが風呂の現場というかステージによって違う、ということを示している。

街場の温泉といえば、それは銭湯かサウナということになるだろう。昔から風呂というのはコミュニティの場として街的に機能してきたし、今なお京都という街は、銭湯に出かけるのに苦労しない。

【第5回】  
コミュニティの、  
場としての銭湯。  
そこは、裸天国だからこそ、  
世の中というものの、  
フレームが少し見えてくる。

肩の力を抜いて、自由に語ろう…。 京の街と付き合うといつていい。	<b>街場</b>	
	<b>の</b>	<b>演算</b>
		袖岡保之



©ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ製作委員会

## 高校生じゃなくても、例えば@西京極でも、人はモンスターに立ち向かうべきなのだ。

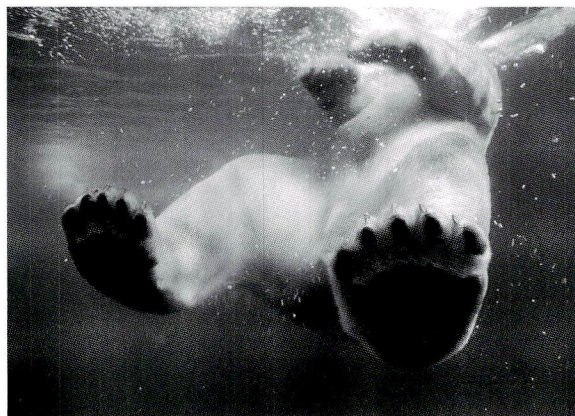
「パラレル」という言葉は並行、つまり交わらない関係である。同作も、学園・恋愛・生死、さらにチェイスムービーの要素…と、色んな要素が並行して語られるが、並行する線を三次元的に上から見て、線同士の交差を観る、いわば「ねじれの位置」を楽しむ感覚である。咳き込むようなテンポが少し気になるものの、主演の市原隼人（と彼の芝居）は、人を幸せにする不思議な力を持っていると思う（僕の今のところ

人生イチの小説「天使の卵」映画化での好演が心に残っているからかもしれないが）。

劇中のセリフ、「私が悲しくなればなるほど、アイツは強くなっていく」。さて、アナタにとって「アイツ」とは何でしょう？ 目をつぶる、やり過ごす、色々対処はあるだろうが、決闘する場合、そのコロシウムとなるのは円山公園かもしれないし、西京極競技場かもしれないぞ。（竹中 聡/本誌）

■「ネガティブハッピー・チェーンソーエッチ」  
 ■監督/北村拓司 出演/市原隼人 関めぐみ 浅利陽介 三浦春馬 他 ■MOVIX京都  
 ■公開中 ■問い合わせ 06-6345-0551 (日活 宣伝部) <http://www.nega-chain.com/>

# アース



©BBC Worldwide 2007

## 地球丸ごとお見せします。大迫力のネイチャー・ドキュメンタリー。

映画の題名を打ち込んでネット検索したら、殺虫剤の会社のホームページが出てきてギョッ。我々の生活、いかんせん「ちきゅうといのち」に厳しい。こうしているうちにも温暖化や環境汚染で地球上の動物は死滅している。「小さなことから始めよう。レジ袋NO」って、アンタ小さすぎるよ…。

この日本のラチのあかない感をスカッとさせてくれるのが同作。カメラマン40人、撮影のべ4500日、200箇所以上。英国放送協会BBCが自

慢の映像で描く生き物と地球の姿は、「ディープ・ブルー」など、最近人気をよんだネイチャーものの集大成と言える迫力。大航海時代をまだ生きてるんじゃないかと思わせる地球ひとまたぎの超スケールで環境保護の切実さを訴えられれば、四の五の言えなくなるのが不思議。これぞ映像の迫力、説得力。まったく島国日本にはありえない…と思ったら、イギリスも島国じゃん！ う〜ん…、この差は一体…。

(沢田眉香子)

■「アース」 ■監督/アラステア・フォザーギル ■MOVIX京都ほか ■公開中

僕が高校3年の時にひとり暮らしを始めた町家には、風呂がなかった。その時に銭湯デビューを果たしたのであるが、銭湯デビューとクルマの免許を取った時期とが重なって、いつも若葉マークの付いたクルマのトランクには風呂セットが入っていた。

よく出かけたのは、有馬湯、金閣寺湯、衣笠温泉、正面湯、洛陽温泉、そして大將軍やスポーツサウナ、ニュー富士といったサウナである。正面湯は、ちょうど綺麗になったというか、ビル銭湯となった時で衝撃を受けた覚えがある。サウナニュー富士は、ご存知、四条マハラジャの上にあつたそれで、「入れ墨の方お断り」と書いてはあるが、五条楽園の組事務所の贈呈名の入った額が飾つてあるなど、世の中というもののフレイムをガキながらも少し理解したような気になったことを思い出す。

もちろん、真剣な入れ墨(ま、真剣ではない入れ墨があるのも困ったモノだが)を初めて見たのも銭湯であると記憶する。また、その入れ墨が何を意味し、どんなメッセージを世間に投げかけているのかも、その時に勉強した。そして、その時に覚えた重要なことは、「無駄口をたたかない」ということだ。

ちなみに、僕は風呂屋でリクルートされたことはないが、ある女友達によると、1人で銭湯に行くというんな職業の方からリクルートにあうそう。その度に、「喫茶店のママ」になってみたり、「毛皮の販売員」になってみたりする自分を想像するそうだが、彼女は今も雑誌編集者続けている。

袖岡保之/フリー編集者、エスクァイアの京都特集に続いて今、取り組んでいるのがドインの雑誌の京都特集。彼の興味はエゴシテ、II京都や、未来都市(サステイナビリティー)持続性、京都というのにビックリ、う〜ん、なるほどな。地元人間が一番分かっている、い〜い、い〜い。